

**2016
BEST
FACULTY
MEMBER**

2016 BEST FACULTY MEMBER

人文社会系	土井 隆義 教授	……………	1
ビジネスサイエンス系	佐藤 忠彦 教授	……………	2
数理物質系	関口 章 教授	……………	3
数理物質系	北 将樹 准教授	……………	4
数理物質系	所 裕子 准教授	……………	5
数理物質系	都甲 薫 助教	……………	6
システム情報系	佐久間 淳 教授	……………	7
システム情報系	櫻井 鉄也 教授	……………	8
システム情報系	水谷 孝一 教授	……………	9
生命環境系	氏家 恒太郎 准教授	……………	10
生命環境系	千葉 親文 准教授	……………	11
生命環境系	TOFAEL AHAMED 准教授	…	12
生命環境系	木下 奈都子 助教	……………	13
人間系	小澤 温 教授	……………	14
人間系	庄司 一子 教授	……………	15
体育系	麻見 直美 准教授	……………	16
芸術系	柴田 良貴 教授	……………	17
芸術系	野中 勝利 教授	……………	18
芸術系	花里 俊廣 教授	……………	19
医学医療系	関堂 充 教授	……………	20
医学医療系	山縣 邦弘 教授	……………	21
医学医療系	水野 智美 准教授	……………	22
図書館情報メディア系	溝上 智恵子 教授	……………	23
計算科学研究センター	相川 祐理 教授	……………	24
計算科学研究センター	梅村 雅之 教授	……………	25
計算科学研究センター	朴 泰祐 教授	……………	26
生命領域学際研究センター	澁谷 彰 教授	……………	27
生命領域学際研究センター	深水 昭吉 教授	……………	28

(所属・五十音順)

土井 隆義 教授

所属 人文社会系

専門分野 社会学



— 業績 —

犯罪社会学の立場から、現代日本の青少年問題や少年犯罪を分析し、この分野の第一人者として社会に発信している。東京都、つくば市などの青少年問題関連の委員会委員、研修会講師なども務めている。人文社会系の社会連携推進室長として、人文社会系教員の研究成果を社会に還元する「筑波大学人文社会系オーサービジット」システムを構築した。

略歴

大阪大学助手、筑波大学社会科学系講師、助教授等を経て、平成17年4月より現職。

佐藤 忠彦 教授

所属 ビジネスサイエンス系

専門分野 マーケティング・
サイエンス
統計科学



— 業績 —

消費者の購買行動を統計モデル、特にベイジアンモデリング技術を駆使して分析するマーケティングサイエンスが主たる研究領域。データサイエンティストの養成やビッグデータ活用の啓蒙活動で重要な役割を担う一般社団法人データサイエンティスト協会理事。研究成果をまとめた著書「ビッグデータ時代のマーケティング: ベイジアンモデリングの活用」や「マーケティングの統計モデル」は経営系大学院の重要図書となっている。

略歴

株式会社ライテック、財団法人流通経済研究所、筑波大学大学院ビジネス科学研究科講師、准教授等を経て、平成26年4月より現職。

関口 章 教授

所属 数理物質系

専門分野 有機化学
元素化学
無機化学



— 業績 —

ケイ素化学の研究に取り組み、300報以上の論文を発表してきた。中でも、2003年のケイ素-ケイ素三重結合化合物（ジシリン）の合成は、20年以上にわたる研究の末、それまで不可能とされてきたケイ素三重結合を世界で初めて実現し、化学の歴史に名を刻んだ。さらに、ケイ素化合物を活用した新しいタイプの蓄電池の開発にも成功した。これらの業績に対して、フンボルト賞、アメリカ化学会キッピング賞、ワッカーシリコーン賞、紫綬褒章など、内外の栄誉に輝いている。

略歴

筑波大学化学系助手、講師、米国ウィスコンシン大学博士
研究員、東北大学助教授等を経て、平成8年4月より現職。

北 将樹 准教授

所属 数理物質系

専門分野 ケミカルバイオロジー
生物有機化学



— 業績 —

有機化合物が生体に与える影響を「形質」と見て、生命の根底にあるメカニズムを探る研究領域（ケミカルバイオロジー分野）のホープ。動物学者と連携し、カモノハシ、ソレノドン、トガリネズミなどの哺乳類が持つ生物毒の採取と化学分析など、学際的な研究も精力的に展開している。平成27年4月には科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞した。

略歴

名古屋大学助手、筑波大学大学院数理物質科学研究科講師等を経て、平成23年11月より現職。平成27年10月よりJSTさきがけ研究員（疾患代謝領域）を兼任。

所 裕子 准教授

所属 数理物質系

専門分野 固体物性
材料科学



— 業績 —

「相転移」と呼ばれる現象を活用し、光や温度、圧力などの外部刺激に応答して光学的・磁氣的・電氣的特性が変化するような、新規な物性現象を示す物質の開発を行っている。ネイチャー・コミュニケーション誌に発表した蓄熱セラミックスの発見に関する論文は特に注目を集めた。

略歴

日本学術振興会特別研究員、科学技術振興機構さきがけ専任研究員、東京大学特任助教等を経て、平成25年4月より現職。

都甲 薫 助教

所属 数理物質系

専門分野 半導体エレクトロニクス



— 業績 —

ガラスやプラスチックなどのありふれた材料の上に半導体薄膜を合成する技術を確立し、この分野で世界を先導している。情報端末や太陽電池の高性能化・フレキシブル化につながる画期的な発明として、国内外の電機メーカーの注目を集めている。現職に着任以来、30篇以上の論文をCorresponding authorとして執筆している他、安藤博記念学術奨励賞など5件の業績賞を受賞している。

略歴 | 平成23年4月より現職。

佐久間 淳 教授

所属 システム情報系

専門分野 知能情報学



— 業績 —

機械学習アルゴリズム、データを暗号化したままのパターン照合や統計解析、ビッグデータや医療データ、個人ゲノムデータのプライバシー保護など広範な領域の専門家として活躍。複数の大型プロジェクトを推進する一方で、プライバシー保護のIT技術に関する専門性が高く評価され、内閣官房・経済産業省・総務省等の政府関係会合の構成員を歴任している。個人情報保護法の改正や、個人情報利活用のための匿名加工情報制度の構築等にも大きく貢献している。

略歴

株式会社日本アイ・ビー・エム、東京工業大学助手、筑波大学大学院システム情報工学研究科准教授等を経て、平成28年4月より現職。

櫻井 鉄也 教授

所属 システム情報系

専門分野 数値解析
計算数学
数理ソフトウェア



— 業績 —

コンピュータを前提とした数学、データおよび画像の解析アルゴリズム、ディープニューラルネットワーク計算アルゴリズム等を研究している。スーパーコンピュータ向けの固有値解法として Sakurai-Sugiura 法 (SSM) を提案した。この解法に基づいて JST/CREST プロジェクトにおいて固有値解析エンジン z-Pares を開発している。また、研究成果の実用化のために MathDesign 社を設立した。日本応用数学会理事、「産業における応用数理」研究部会主査、「応用数理ものづくり研究会」幹事、JSIAM Letters 編集委員長を務めている。

略歴

名古屋大学助手、筑波大学電子・情報工学系講師、同助教授を経て、平成17年12月より現職。平成24～27年度情報科学類長。平成26年度～現在、研究戦略室長。放送大学客員教授。

水谷 孝一 教授

所属 システム情報系

専門分野 超音波・光応用計測
食品・農業工学
楽器・音楽音響



— 業績 —

教育分野の業績として、2015年度に博士後期課程学生3名（2000年以降通算31名：全員標準年限内）を修了させ、うち1名（通算10名）は早期修了、うち1名（通算8名）は日本学術振興会特別研究員であった。同年度に3名（通算5名）がデュアル・ディグリープログラムを履修し、1名（通算3名）が学長表彰や通算して8名の研究科長表彰を受賞する等優秀な学生を多数輩出するほか、希望するポストへ全員が就職することにも力を入れている。さらには、大学院の教育改革にも大きく貢献している。

略歴

防衛大学校研究員、陸上自衛隊通信学校研究員、筑波大学物理工学系講師、助教授等を経て、平成16年4月より現職。

氏家 恒太郎 准教授

所属 生命環境系

専門分野 地質学



— 業績 —

「フィールド調査」・「室内実験」・「深海掘削」を基軸として、プレート沈み込み帯で発生する地震発生過程や付加体形成過程に関する研究を行っている。2011年東北地方太平洋沖地震時にプレート境界が大きく滑って巨大津波を発生させたメカニズムを明らかにし、研究成果は米国科学雑誌『Science』に掲載され、学問的・社会的に大きな反響を呼んだ。当該業績により日本地質学会小藤文次郎賞を受賞した。

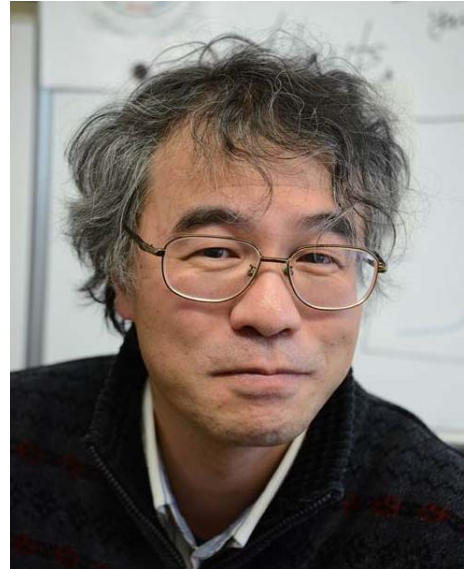
略歴

日本学術振興会PD、海洋研究開発機構主任研究員、カリフォルニア大学サンディエゴ校客員研究員等を経て、平成22年6月より現職。

千葉 親文 准教授

所属 生命環境系

専門分野 動物生理・行動
神経生理学・神経科学一般
発生生物学
実験動物学



— 業績 —

卓越した再生能力を有するイモリを材料に、ヒトへの応用研究を行っている。これまで確立されていなかったイモリでの遺伝子導入技術を開発し、イモリの再生能力の分子基盤を解明しつつある。特に2016年には、イモリ特有の再生能力に関して250年前に呈された疑問を解明した。また、イモリ研究コミュニティの充実、イモリの生息地保護とその啓発活動等にも尽力している。

略歴

筑波大学生物科学系助手、講師、生命環境科学研究科講師、助教授を経て、平成23年10月より現職。

TOFAEL AHAMED

准教授

所属 生命環境系

専門分野 精密農業
リモートセンシング技術



— 業績 —

GIS（地理情報システム）リモートセンシング技術の農業への活用、各種農業の自動化、新分野である農業経営のエネルギーや情報化技術の評価、それらに基づく意思決定機構の解明等において、包括的な業績を発表している。その一方で、農業工学、生物資源工学等の分野におけるアジア諸国との連携強化に尽力し、積極的な交流活動を進めている。精密農業および生物資源工学分野の教科書も執筆している。

略歴

Bangladesh 農業大学講師、准教授等を経て、平成22年5月より現職。

木下 奈都子 助教

所属 生命環境系

専門分野 植物生理学



— 業績 —

植物と昆虫の相互作用、昆虫に食害された植物の植物ホルモン・遺伝子の転写変化、それに伴う防御応答に至るまでの分子機構、植物個体内での食害シグナルの伝播機構・環境ストレス応答機構などに関する研究を行っている。また、国際化拠点整備事業G30担当教員として授業を担当し、国際交流のコーディネート業務でも大きな貢献をしている。研究面でも多くの外部資金獲得に積極的である。

略歴

ロックフェラー大学植物分子生物学研究室博士研究員、日本学術振興会研究員等を経て、平成26年3月より現職。

小澤 温 教授

所属 人間系

専門分野 社会福祉学



— 業績 —

厚生労働省社会保障審議会障害者部会委員をはじめ、多数の地方公共団体における障害者施策関係委員会の委員長・部会長職を担ってきた。研究面では厚生労働科学研究（障害者政策総合研究事業）等の研究事業において政策提言につながる成果を出し、平成27年度における障害福祉制度の改正に関連する政策提言論文を多数発表するなど、障害者福祉施策の充実・推進に著しい業績を上げている。

略歴

国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所、大阪
市立大学助教授、東洋大学教授等を経て、平成23年4月より現職。

庄司 一子 教授

所属 人間系

専門分野 教育臨床学
教育心理学
発達臨床心理学
カウンセリング



— 業績 —

児童・生徒の不登校、いじめ、対人関係、居場所など学校適応上の問題の解明と支援、学校・教師・保護者への支援に関わる研究等を行なっている。授業ではアクティブ・ラーニングを積極的に展開。大学院生に対しては実践的教育・高度専門的技術の習得と洗練、課題解決と支援につながる研究、問題解明をめざす。

学生と共に中学や高校で生徒の学校生活支援に取り組み教育的効果のみならず社会貢献として茨城県教育委員会から期待されている。茨城県男女共同参画、子育て、教育関連事業の役割も担う。

略歴

筑波大学心理学系講師（学校教育部）、教育学系助教授等を経て、平成16年4月より現職。

麻見 直美 准教授

所属 体育系

専門分野 スポーツ科学
食生活学
応用健康科学



— 業績 —

アスリート等の栄養アセスメントと食生活のサポート、運動と食生活が骨代謝および体組成に及ぼす影響等の研究を行っている。その一方で、運動栄養学に関する研究成果を社会に還元するための多岐にわたる活動を精力的に実施し、国・地域での競技スポーツの発展や健康の増進に大きく貢献している。さらに、ダイバーシティ推進に関わる社会貢献活動においても極めて優れた実績を上げている。

略歴

東京大学研究生、日本女子大学客員研究員、小田原女子短期大学助教授、筑波大学体育科学系講師等を経て、平成20年5月より現職。

柴田 良貴 教授

所属 芸術系

専門分野 彫塑制作
(具象表現による可能性)



— 業績 —

塑造分野の高度な専門的知識と技能を備えた専門家を養成するための教育に尽力すると同時に、自らも精力的な制作活動を展開し、改組第2回日展において、最高賞の文部科学大臣賞（改組日展としては第1号）を受賞した。さらには、つくば駅前の科学モニュメント「未来への道」の江崎玲於奈博士像、朝永振一郎博士像の制作、儒教文化の視覚イメージに関する復元研究の一環としての孔子像の制作にもあたった。

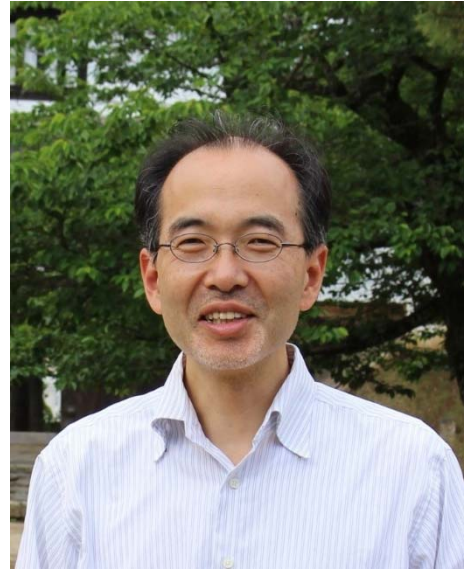
略歴

筑波大学附属高等学校非常勤講師、筑波大学附属盲学校教諭、筑波大学芸術学系講師、助教授等を経て、平成15年4月より現職。

野中 勝利 教授

所属 芸術系

専門分野 環境デザイン



— 業績 —

都市デザイン・都市計画を専門とし、都市づくりにおける歴史的
文脈による方法論の構築を志向した研究を進めている。その成果
は、地方の城下町都市における近代都市景観・計画史に関する研
究として高く評価され、栄誉ある賞に輝いている。また、自治体
の委員やアドバイザーとして多くの公職を務め、政策の提言やそ
の実現について具体的な支援を行っている。

略歴

株式会社長銀総合研究所、早稲田大学助手、株式会社長銀
総研コンサルティング、筑波大学芸術学系講師、人間総合
科学研究科助教授等を経て、平成22年4月より現職。

花里 俊廣 教授

所属 芸術系

専門分野 都市計画・建築計画



— 業績 —

集合住宅を中心とした研究、近年では、特に、老朽化マンションの建替えに伴う課題処理等に関する研究を本業とする。平成27年度には軽井沢の歴史的建造物であるアパートメント別荘、旧スイス公使館深山荘の保存と活用に関するワークショップや公開シンポジウムを軽井沢町と筑波大学の主催で実施し、終戦前後のこの建物の役割について明らかにし、メディアにも取り上げられた。

また、当該ワークショップ・シンポジウム運営のための調査と連動してスイス連邦工科大学チューリッヒ校との連携基盤を構築し、本学との連携に向けた足掛かりを築いた。



旧スイス公使館深山荘

略歴

早稲田大学助手、筑波大学芸術学系講師、人間総合科学研究科助教授、准教授等を経て、平成24年4月より現職。

関堂 充 教授

所属 医学医療系

専門分野 形成外科学



— 業績 —

形成外科の手術数を飛躍的に伸ばすと同時に、微小血管吻合を用いた手術手技により手術成績を飛躍的に向上させている。他診療科の手術にも積極的に参加し、乳房再建インプラントの手術件数を10件から70件に増加させるなど、先進的医療にも多大な貢献をしている。若手教員やレジデントに対する手術指導も精力的に行い、筑波大学の形成外科診療のレベルを底上げし、形成外科は附属病院の看板診療科となっている。

略歴

北海道大学医学部附属病院、ケンタッキー大学医学部形成外科学講座研究員、北海道大学病院助手、講師等を経て、平成20年7月より現職。

山縣 邦弘 教授

所属 医学医療系

専門分野 腎臓内科学



— 業績 —

厚生労働省研究班の班長として慢性腎臓病の長期大規模前向き介入研究をまとめ、その成果は本年度の診療報酬改定に採用されるなど腎臓疾患の治療に著しく貢献した。「血液透析導入」、「CKD進行例の腎障害進展予防」、「薬剤性腎症診療」の3つの診療ガイドラインを代表者、責任者として取りまとめ、提言作成委員長も務めた。日本健康会議の重症化予防WGメンバーとして、我が国の生活習慣病対策、腎不全対策に傑出した貢献をしている。

略歴

筑波大学附属病院、(株)日立製作所日立総合病院、筑波大学臨床医学系講師、人間総合科学研究科助教授、准教授等を経て、平成18年7月より現職。

水野 智美 准教授

所属 医学医療系

専門分野 命の教育
乳幼児期の臨床保育学
障害理解



— 業績 —

バリアフリー、障害理解、乳幼児期の臨床保育学、命の教育、発達障害児の偏食等の研究を行う。子育て活動の推進に向けた社会貢献も積極的に行い、土浦市の「公立保育所民間活力導入実施計画策定委員会」の副委員長、つくば市の「子ども・子育て会議」委員として、子どもの健全育成に向けた活動をしている。また幼稚園、保育所の保育者を対象にした自主勉強会、保育方法の研修会を頻繁に開催している。

略歴

福山平成大学助手、桜花学園大学助教授、近畿大学専任講師、准教授等を経て、平成21年9月より現職。

溝上 智恵子 教授

所属 図書館情報メディア系

専門分野 高等教育政策
生涯教育



— 業績 —

「高齢者の情報行動」をテーマに、高齢者を対象として図書館サービス及び図書館における認知症支援サービスに関わる研究を積極的に推進している。研究の成果を図書館業界に向けても積極的に発信することで社会に還元し、図書館情報専門職との情報共有に結びつけている。活動範囲は生涯学習や社会福祉の領域にまで及び、卓越した研究能力は本系教員の範となっている。

略歴

放送教育開発センター職員、文部省職員、総合研究開発機構研究員、長岡技術科学大学助教授、図書館情報大学助教授、教授等を経て、平成14年10月より現職。

相川 祐理 教授

所属 計算科学研究センター

専門分野 星間化学
星・惑星系形成



— 業績 —

星が生まれる場所である分子雲、生まれたばかりの星の周りに形成される円盤の中でのガスや氷の分子組成について研究することで、星や惑星が生まれる過程を探っている。そうした星間物質の分子進化に関する理論的研究ではわが国を代表する研究者である。国際的な共同研究を精力的に進め、平成26年度には地球惑星科学振興西田賞を受賞した。

略歴

日本学術振興会海外特別研究員、日本学術振興会特別研究員、神戸大学助手、助教、准教授を経て、平成27年4月より現職。

梅村 雅之 教授

所属 計算科学研究センター

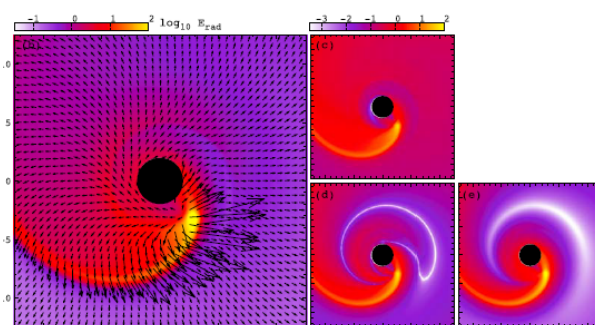
専門分野 理論宇宙物理学



— 業績 —

ダークマター宇宙における銀河形成やブラックホール等に関する研究を行っている。計算科学研究センター長として同センターの運営に尽力し、世界レベルの研究活動を推進することに大きく貢献している。また、東京大学情報基盤センターと共同設置した

「最先端共同HPC基盤施設」において導入したスーパーコンピュータOakforest-PACSは、2016年11月のTOP500リストで国内最高性能と認定され、「京」コンピュータの記録を5年ぶりに塗り替えた。



ブラックホール周りの光伝播の一般相対論的輻射輸送シミュレーション

略歴

日本学術振興会特別研究員、京都大学研究員、国立天文台助手、筑波大学物理学系助教授等を経て、平成14年3月より現職。

朴 泰祐 教授

所属 計算科学研究センター

専門分野 ハイパフォーマンスコンピューティング
並列計算機システム



— 業績 —

スーパーコンピュータのアーキテクチャ及び実応用に関する研究を長年に渡り継続し、これに関する各種成果と大型研究予算の獲得に成功している。高性能計算に関するヨーロッパ最大の国際会議であるISCカンファレンスシリーズの運営委員、高性能計算分野において最高の権威とされるACM Gordon Bell Prizeの選定委員会委員を務めるなど、高いリーダーシップを発揮すると同時に、日本を代表する高性能計算分野研究者として活躍している。

略歴

慶應義塾大学助手、筑波大学電子・情報工学系講師、システム情報工学研究科助教授等を経て、平成17年3月より現職。

澁谷 彰 教授

所属 生命領域学際研究
センター

専門分野 免疫学
血液内科学



— 業績 —

免疫を制御する受容体について研究を行い、様々な受容体を同定するとともに、それらの受容体の免疫制御における機能を個体レベルで解明している。特に粘膜の死細胞が制御性T細胞を減少させ、免疫反応を刺激することで腸炎、アトピー性皮膚炎、喘息の発症が促進されることを解明した。平成27年には『難治疾患の克服を目指した免疫受容体の研究』で、第26回つくば賞に輝いた。

略歴

三井記念病院、筑波大学臨床医学系講師、DNAX分子細胞生物学研究所、岡山大学講師、筑波大学基礎医学系助教授、理化学研究所等を経て、平成15年4月より現職。

深水 昭吉 教授

所属 生命領域学際研究
センター

専門分野 生化学
分子生物学



— 業績 —

細胞が環境の変化に応答し、代謝などの化学反応によって恒常性が維持される仕組みの解明に取り組んでいる。マウスや線虫のモデル生物を遺伝学的に利用して、栄養、ホルモン、ストレスが細胞に及ぼす影響を調べ、生活習慣病発症や老化・寿命の本質を理解することを目指している。平成27年には高峰譲吉賞を受賞したほか、科学研究費新学術領域研究の代表を務め、現在はJST産学共同実用化開発事業（NexTEP）の研究代表者である。

略歴

筑波大学応用生物化学系助手、講師、助教授を経て平成11年7月より先端学際領域研究センター教授。その後現職。



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学 BEST FACULTY MEMBER
表彰制度に基づき、2015年度の教育
研究活動において、極めて優れた業
績を上げたと認められ、表彰された
本学教員を紹介しております。

編集・発行／問合せ先
国立大学法人筑波大学
企画評価室
TEL 029-853-2047
Mail ki.hyoka@un.tsukuba.ac.jp

協力／広報室